

第1章 はじめに

1 計画策定の趣旨

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことができないものです。

国では平成13年12月「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、この法律に基づき、平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。

むつ市では、平成19年12月に「むつ市子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。

この間、国においては平成20年3月に第二次計画、平成25年5月に第三次計画を策定しています。

青森県でも県民全体が子どもの読書活動の重要性を理解し、子どもの発達段階に応じた読書活動ができるよう、家庭、地域、学校がそれぞれの役割を果たすとともに、協力・連携による子どもの読書環境づくりを進めるために、平成16年3月に「青森県子ども読書活動推進計画」を策定し、その後、平成22年3月に第二次計画、平成27年3月に第三次計画を策定し、県内市町村に、より一層の子どもの読書活動の推進を促しています。

このため、これらの情勢の変化と本市における課題を踏まえ、新たに「第2次むつ市子ども読書活動推進計画」を策定することとしました。

2 現状と課題

(1) 家庭における読書活動の推進

市立図書館や乳幼児検診の場において、市立図書館と読み聞かせ活動グループが連携して読み聞かせの機会をつくることにより、乳幼児と保護者が絵本を通して温かく楽しく言葉と触れ合うことの重要性を伝え、家庭で子どもと保護者が読書を楽しむきっかけとなるよう働きかけを行っています。

(2) 図書館における読書活動の推進

市立図書館では、児童書の蔵書を増やすなど読書環境の充実を図りました。

また、読み聞かせ活動グループと連携して、児童向けのおはなし会や企画展を実施したほか、読書内容が児童書から一般書に移行する年代の中学生・高校生のためにティーンズブック等のコーナーを設置するなど、各種事業を実施しています。

しかしながら、児童書の利用冊数や児童・生徒の利用者数が減少傾向にあるため、さらなる取組が必要です。

(3) 学校等における読書活動の推進

幼稚園・認定こども園・保育園においては、読み聞かせを行い子どもに本の楽しさを伝えるよう努めています。

また、小中学校においては、朝読書など子どもの読書活動の習慣化に努めていま

す。

一方、学校図書館の蔵書冊数の目標である、学校図書館図書標準の達成状況については青森県平均を下回っており、学校図書館の環境整備を図ることが課題となっています。

3 計画の期間

本計画は、平成30年度から平成34年度までの5年間にわたる施策の基本的方向を示すものです。

第2章 基本的方針

1 子どもの読書環境の整備

子どもの読書習慣の形成のためには、発達段階に応じた乳幼児期からの読書環境づくりに配慮することが必要です。

家庭、地域、学校等は、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高め、子どもが生涯にわたる読書習慣を身につけることができるよう、本と身近に接する機会を増やすことが大切です。

このような観点から、市は、子どもが身近に本に触れられる環境づくりや、読書に親しめる機会の提供に努めていきます。

2 家庭、地域、学校等を通じた社会全体での取組の推進

子どもの読書活動を推進するためには、家庭、地域、学校等を通じた社会全体での取組が必要です。

そのためには、それぞれが担うべき役割を果たして、子どもが読書に親しむ機会の充実を図ることや、子どもの読書活動に大きく関わっている市立図書館、公民館などの関係機関、読み聞かせ活動グループ等の読書活動推進団体が緊密に連携し、相互協力を図りながら、地域ぐるみで取り組んでいくことが大切です。

このような観点から、市は、家庭、地域、学校等、それぞれが相互に連携・協力して、子どもが進んで読書活動ができるよう、子どもの読書活動に関する情報の提供を行っていきます。

3 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及・啓発

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの読書活動の意義や重要性について、市民が広く理解と関心を深める必要があります。

まず、大人が子どもの読書活動を推進する気運を高めていくことや、子どもの成長に深く関わっている保護者、教職員、保育士などが読書活動に理解と関心をもつことが大変重要です。

このような観点から、市は、子どもたちの読書活動を推進するため、読書活動の意義や重要性についての普及・啓発を行っていきます。

第3章 家庭、地域、学校等における読書活動の推進

1 家庭における読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における家庭の役割

子どもの読書習慣は日常の生活を通して形成されるものであり、読書が生活の中に位置づけられ継続して行われるよう、乳幼児期から保護者が配慮していくことが大切です。家庭では、子どもへの読み聞かせや、子どもと一緒にする読書など、読書に対する興味や関心を引き出し、読書習慣が自然に身につくような働きかけが望まれます。

(2) 現状と課題

- ① 子どもの生活環境は、情報メディアの普及・多様化によって大きく変化しており、読書を生活の中で意識的に習慣化していく必要があります。

保護者は、市立図書館、公民館で行われる「おはなし会」や親子を対象とした行事等への参加を通じて、家庭における読み聞かせや、子どもが読書の時間をもてるよう、家庭で習慣づけることの重要性について理解を深めることが大切です。

- ② 現在、親子で絵本に親しんでもらうため、離乳食教室や10ヶ月児健診の場を活用して、ボランティアが読み聞かせに取り組んでいます。また、3歳児健診の際にはボランティアが絵本を持参して紹介しており、参加した親子は、その場で好きな本を選び読んでいます。これらの取組を継続することが望まれます。

(3) 市の施策

- ① 子どもの健やかな育成を支援する施設である「キッズパーク」では、保護者が子どもに読み聞かせできるような図書コーナーを設置しているほか、親子を対象とした行事を開催した際には、職員が絵本、紙芝居等の読み聞かせを行っています。これらの取組を継続していきます。

- ② 地域の読み聞かせ活動グループ等の関係団体、子どもの読書活動が行われる施設（学校、幼稚園・認定こども園・保育園・児童館・放課後児童クラブ、病院、地域子育て支援センター等）と連携し、子どもの読書活動を推進する取組の充実に努めていきます。

2 市立図書館における読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における市立図書館の役割

- ① 市立図書館は、子どもにとって、多くの本と出会い読書の楽しさを知ることのできる場所です。また、保護者にとっては、豊富な蔵書から子どものための本を選んだり、子どもの読書についての相談ができる場所です。

② 市立図書館は、絵本の読み聞かせや紙芝居などを行う「おはなし会」の実施、季節の行事や話題をテーマにした絵本の展示、子どもに薦めたい本のブックリストの作成など、子どもの読書に関する様々な機会や情報を提供する場所です。

③ 市立図書館は、子どもがいつでも読書に親しむことのできる場所であり、地域における子どもの読書活動を推進するうえで中心的な役割を果たすことが求められています。そのため、子どもの読書活動を推進する団体等に対して活動場所や学習機会の提供、読書に関連する情報提供などの支援を行います。

(2) 現状と課題

【市立図書館における児童書の蔵書数】

平成 19 年度	平成 28 年度	比 較
29,282 冊	40,564 冊	↑ 11,282 冊、↑ 38.5%

【市立図書館における児童書の利用冊数】

平成 19 年度	平成 28 年度	比 較
67,060 冊	55,822 冊	↓ 11,238 冊、↓ 16.8%

【市立図書館における児童（12歳以下）延べ利用者数】

平成 19 年度	平成 28 年度	比 較
14,174 人	9,171 人	↓ 5,003 人、↓ 35.3%

※12歳以下住民登録人口

平成 19 年度末 7,583 人

平成 28 年度末 5,691 人（↓ 1,892 人、↓ 25.0%）

【市立図書館における生徒（13歳～18歳）延べ利用者数】

平成 19 年度	平成 28 年度	比 較
3,322 人	1,698 人	↓ 1,624 人、↓ 48.9%

※13歳～18歳住民登録人口

平成 19 年度末 3,913 人

平成 28 年度末 3,248 人（↓ 665 人、↓ 17.0%）

※むつ市立図書館「運営の現況」による。

① 図書館資料の整備・充実

市立図書館においては、児童書の蔵書を増やすなど読書環境の充実に努めています。子どもが、読みたい本を豊富で多様な図書の中から自由に選択することができるよう、蔵書の実態を把握しながら、計画的に整備し充実を図ることが望まれます。

② 読書活動を推進する取組の充実

子どもの人口が減少していることもあり、平成19年度と比較して児童書の利用冊数は減少しています。また、延べ利用者数も減少しており、特に中学生、高校生に当たる年齢の利用者数が減少しています。そのため、子どもの読書活動を推進するための取組をさらに充実させることが望まれます。

ア 幼児や児童を対象に、絵本の読み聞かせや紙芝居などのおはなし会をボランティアと図書館職員が毎週実施しています。また、子どもの読書週間を含め、春、夏、秋、冬に大きなおはなし会を実施しています。

今後もブックトークなどにより、児童の読書の選択肢を広げることが望まれます。また、乳児とその保護者を対象に、赤ちゃん絵本の読み聞かせの機会を拡充することが望まれます。

イ 児童専用カウンターに職員を交替で配置して、定期的に企画展を実施し、子どもたちの読書へのきっかけづくりに努めていますが、子どもたちが気軽に読書相談できるよう、またそれに十分応えられるよう専任職員の養成及び配置が望まれます。

ウ 読書内容が児童書から一般書に移行する年代の中学生・高校生のためにティーンズブック・職業案内図書コーナーを設置してあります。このコーナーの利用促進と充実を図るために、選書や紹介を積極的に行っていくことが望まれます。

③ 貸出サービスの充実

市立図書館から離れている地域には、学校を主なステーションとして、移動図書館車（ブックモバイル）を運行しています。また、学校、幼稚園・認定子ども園・保育園等に団体貸出を実施するとともに、より多くの本との出会いのために、希望する学校に県立図書館から協力図書の一括貸出（1年間）を利用して、貸し出しています。これらのサービスをもっと広範囲に知らせていくことが望まれます。

④ 職員の資質向上

図書館職員は、子どもの読書意欲を促したり、子どもや保護者の読書に関する相談に応えられるように、児童書についての十分な知識と経験が求められることから、職員研修の充実が望まれます。

⑤ 学校図書館との資源共有化の促進

ア 学校図書館との資源共有化

インターネットによる市立図書館の蔵書検索が可能になったことにより、子どもの多様な興味・関心に幅広く応えることができるようになりました。今後も市立図書館と学校図書館との資源共有化を推進することが望まれます。

イ 団体貸出の活用

市立図書館の団体貸出について、更なる周知を図り、学校での読書活動や調査活動に活用できる資料や読み聞かせ用の大型絵本等の充実に努めることが望まれます。

⑥ 学校との連携

図書館の意義や役割についての理解を深めるため、学校の施設見学や職場体験を積極的に受け入れています。調べ学習も含め、より効果的な体験とするために、学校との連携をより一層図っていくことが望まれます。また、学校からの求めに応じ、学校図書館の環境整備や図書資料の充実に、市立図書館からの確かなアドバイス等をしていくことも望まれます。

(3) 市の施策

① 乳幼児・児童・生徒と変化する年齢層の読書要求に応えられるような図書館資料の収集に努めます。

② いつでもどこでも自由に子どもが読書を楽しめるように、市立図書館の本館と分館の連携を図るとともに、市内一円に移動図書館車（ブックモービル）を運行し、貸出サービスの充実に努めます。

③ 子どもたちが多くの本と出会えるように、企画展示やブックリストの作成など、読書のための情報を提供します。

④ 広報むつやホームページを活用し、図書に関する情報や、「おはなし会」の開催など子どもの読書活動の機会に関する情報を提供します。

⑤ 子どもの読書活動を推進していくために、市立図書館から学校図書館への貸出図書の更なる充実に努め、読み聞かせ団体等ボランティアによる子どもたちへの読み聞かせ等の実施、調べ学習のために学校図書館との連携・協力体制の充実に努めます。

⑥ 学校、幼稚園・認定こども園・保育園等と連携し、より良い子どもの読書環境の整備や、障がいのある子どもに配慮した読書活動の工夫に努めます。また、子どもの読書活動を推進する団体等と協力し、幼児からの読書や親子での読書

が促進されるよう努めます。

3 読み聞かせ活動グループ等における読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における読み聞かせ活動グループ等の役割

- ① 子どもが読書に親しむための様々な機会の提供を行います。
- ② 乳幼児期の親子読書を推進するために、関係機関と協力し様々な機会の提供を行います。
- ③ 学校、幼稚園・認定こども園・保育園・児童館・放課後児童クラブ、病院、地域子育て支援センター等、社会教育団体や施設等の要請により、読み聞かせ活動者を派遣し、子どもの読書活動の支援を行います。
- ④ 子どもの読書活動の推進を図り、読み聞かせ活動をより充実させるために、情報交換や研修会などを行います。

(2) 市の施策

- ① 多様な読み聞かせ活動が行えるよう、児童書や読み聞かせに関する図書を充実させるよう努めます。
- ② 読み聞かせ研修会等を開催し、読み聞かせボランティアの輪を広げ、学校、幼稚園・認定こども園・保育園・児童館・放課後児童クラブ、病院、地域子育て支援センター等、社会教育団体や施設等との間にあって、相互の情報交換ができるよう努めます。

4 学校における読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における学校の役割

- ① 学校においては、各教科、道徳科、特別活動及び総合的な学習の時間を通じて、様々な読書活動が行われています。読書は、児童生徒の知的な活動を増進し、人間形成や情操を育む上で大きな役割を担っています。小中学校の各段階において、読書に親しむ態度や読書習慣を育成するために、子どもの豊かな読書経験の機会を充実させることが重要です。
- ② 朝の読書や読み聞かせ活動など、具体的な読書活動の取組を設定したり、推薦図書コーナーや読書週間を設けるなど、読書に親しむ環境づくりをすることが大切です。また、家庭にも読書の必要性などを働きかけ、読書に対する意識の高揚を図ることも有効な手段です。
- ③ 学校図書館は、児童生徒が自由に読書活動を楽しみ、創造力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こすため、豊かな心を育む読書センターとしての機能と、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し、教育課程の展開に寄

与する学習情報センターとしての機能を果たし、学校教育の中核的な役割を担うことが期待されています。

- ④ 子どもの読書活動を推進していくため、教職員が読書活動の意義について理解を深めることが極めて重要です。そのため、学校における読書活動推進の校内体制づくりがなされるとともに、読書指導の方法や学校図書館の活用をはじめとした取組に関する情報交換や研究協議などを行い、意識の高揚を図っていく必要があります。

(2) 現状と課題

【学校図書館の平均蔵書数】

	平成 20 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日	比較
小学校	4,392 冊	5,503 冊	↑ 1,111 冊、↑ 25.3%
中学校	6,688 冊	6,549 冊	↓ 139 冊、↓ 2.1%

【学校図書館図書標準の達成状況】

① 標準の 50%に満たない学校数

	平成 20 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日
小学校	4 校	2 校
中学校	1 校	1 校

② 達成している学校数

	平成 20 年 3 月 31 日	平成 28 年 3 月 31 日
小学校	1 校	1 校
中学校	3 校	2 校

③ 達成している学校の割合（達成している学校数／全学校数）

	平成 20 年 3 月 31 日			平成 28 年 3 月 31 日		
	全 国	青森県	むつ市	全 国	青森県	むつ市
小学校	42.0%	21.5%	6.7%	66.4%	45.8%	7.7%
中学校	36.8%	17.4%	33.3%	55.3%	36.3%	22.2%

※学校図書館図書標準とは
公立義務教育諸学校における学校図書館の目標とする蔵書冊数のこと。

【蔵書のデータベース化を実施している学校数】

	平成 20 年 5 月 1 日			平成 28 年 3 月 31 日		
	学校数	うち 100%	うち一部	学校数	うち 100%	うち一部
小学校	1 校	1 校	0 校	4 校	1 校	3 校
中学校	0 校	0 校	0 校	2 校	1 校	1 校

【全校一斉の読書活動を実施している学校数】

	平成 20 年 5 月 1 日		平成 28 年 3 月 31 日	
	学校数	うち朝読書を実施	学校数	うち朝読書を実施
小学校	15 校	14 校	12 校	8 校
中学校	8 校	8 校	8 校	7 校

【ボランティアと連携している学校数】

	平成 20 年 5 月 1 日	平成 28 年 3 月 31 日
小学校	6 校	8 校
中学校	0 校	0 校

【市立図書館と連携している学校数】

	平成 20 年 5 月 1 日	平成 28 年 3 月 31 日
小学校	11 校	10 校
中学校	3 校	1 校

※平成 20 年 3 月 31 日現在及び平成 20 年 5 月 1 日現在の小学校数 15 校

平成 28 年 3 月 31 日現在の小学校数 13 校

平成 20 年 3 月 31 日現在、平成 20 年 5 月 1 日現在及び平成 28 年 3 月 31 日

現在の中学校数 9 校

※「学校図書館の現状に関する調査」による。

① 図書の整備・充実

平成 27 年度末において学校図書館図書標準を達成している学校は、小学校 13 校のうち 1 校（7.7%）、中学校 9 校のうち 2 校（22.2%）であり、青森県平均の小学校 45.8%、中学校 36.3%を下回っています。

子どもの豊かな読書経験の機会を充実していくためには、子どもの知的活動を増進し、多様な興味・関心に応える魅力的な図書を整備・充実させていくこ

とが必要です。

また、各教科、道徳科、特別活動、総合的な学習の時間等において多様な教育活動を展開していくためにも、図書を充実していくことが求められています。

このため、各学校において自校の図書の充実に取り組むことはもとより、他校の学校図書館や市立図書館などと連携して、学校を越えた図書の共同利用化を図ること、また、司書教諭同士の情報交換を密にし、特色ある図書館づくりのための計画的な図書購入を進めることも必要です。

② 学校図書館の機能の整備・充実

ア 学校図書館の運営に当たっては、校長のリーダーシップの下、司書教諭等が中心となり、教職員や保護者などが連携・協力して運営し、それぞれの立場から学校図書館の機能の充実を図っていくことが必要です。

イ 子どもたちが学校図書館を計画的に利用し、主体的、意欲的に読書活動や学習活動ができるよう、昼休み、放課後、長期休業中など、できるだけ多く学校図書館を開館するとともに、子どもたちがじっくりくつろいで読書ができる空間をつくる必要があります。

また、読もうとする図書を探し出しやすいように、配置や案内を工夫したり、各種掲示物の充実を図るなど、図書を通したいろいろな情報を得られるような環境づくりも必要です。

③ 情報化の促進

平成27年度末において、蔵書のデータベース化を行っている学校は、小学校4校（30.8%）、中学校2校（22.2%）でした。今後は、蔵書のデータベース化をさらに進める必要があります。

また、自校の学校図書館だけではなく、地域全体での図書の共同利用や各種資料の検索、多様な興味・関心に応える図書の整備等を図るため、学校図書館にコンピュータを整備し、校内LANへの接続によるネットワーク化や他校の学校図書館や市立図書館等とネットワーク化することも必要です。

④ 司書教諭を中心とした教職員間の協力体制の推進

学校図書館の司書教諭については、平成27年度末において、12学級以上の小学校5校、中学校1校には全て配置されています。

司書教諭は、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導等を行うなど、学校図書館の運営・活用について中心的役割を担うものです。しかし、ほとんどの司書教諭は学級担任や他の校務分掌も兼任しているため、図書館業務に当たる時間を十分に確保することが難しい状況です。そのため、司書教諭が学校図書館の運営に十分な役割を果たすことができるよう、教職員の協力体制を確立したり、校務分掌上の配慮をするなどの工夫が必要です。また、司書教諭を補佐し学校図書館運営全般に携わる専任の学校司書の配置についても、検討していく必要があります。

さらに、11学級以下の学校においても、司書教諭の配置や学校図書館担当教諭の計画的な配置がなされ、読書活動推進のコーディネーターとして活動できるよう体制を整えることが望まれます。

⑤ 読書活動の推進

平成27年度末において、全校一斉の読書活動に取り組んでいる学校は、小学校12校（92.3%）、中学校8校（88.9%）でした。実施率はかなり高い水準にあることから、継続的な取組と内容の工夫改善を図っていくことが必要です。

ア 校内一斉読書の推進

「朝の読書」は、学校において毎日一斉に好きな本を読むことで、子どもの読書活動の習慣化や、聞く・話す・読む・書く力を養成することに有効であると考えられています。朝の読書や読書週間など、校内一斉読書をさらに推進するとともに、「読書ノート」や「読書マラソン」などの記録の工夫や「読書新聞」や「読書クイズ」などの表現の工夫など、特色ある読書活動を展開し、読書時間の確保などを行うことが必要です。

イ 児童・生徒による読み聞かせ

子どもは、本を読んであげたり読んでもらったりする体験を通して、読書の楽しさを味わうことができます。児童生徒が、学級活動や総合的な学習の時間、ボランティア委員会や図書委員会等の活動の中で、読み聞かせ活動の取組をすることも読書活動の推進に有効です。

⑥ 読書指導の充実

ア 読書指導の充実

子どもが、読書の楽しさや良さを味わえるよう、校内の協力体制・仕事の分担上の工夫を行うとともに、推薦図書等のリストの紹介、図書委員会の活性化、優秀感想文や読書意欲の高い児童生徒の紹介や表彰、学級文庫や廊下文庫の充実等によって、指導の工夫や取組に努めることが望まれます。

イ 障がい配慮した読書指導

障がいのある子どもへの読書指導については、読書を進めやすいように、活動内容の工夫に努めることが必要です。例えばペープサート（棒に2枚の絵を張り合わせた人形を使って行う簡易人形劇）、パネルシアター（パネル板に、お話の背景や、絵を描いて切り取った登場人を貼ったり、裏返したりしながらお話を語ること）、エプロンシアター（人が身につけたエプロンを舞台としてお話を語ること）、プロジェクター、大型絵本、仕掛け絵本、歌の活用等、子どもの興味・関心に訴える読書指導、読み聞かせ活動を推進することなどです。

⑦ 家庭・地域との連携による読書活動の推進

平成27年度末において、ボランティアの協力を得ている学校は、小学校8校で、中学校ではありませんでした。ボランティアの活動内容は、主に読み聞かせ等の読書活動の支援となっています。このほか、図書の整理や修繕に係る協力を得ている学校もあります。

ア 子どもの読書活動を推進するため、保護者や地域の読み聞かせボランティアと連携し、学校と保護者、地域が一体となって、子どもの読書活動の一層の推進を図っていくことが必要です。

イ 児童生徒に対する読み聞かせや、本への興味を引き出すよう工夫を凝らして紹介を行う「ブックトーク」活動、学校図書館に関する広報活動等、保護者、地域のボランティアの協力を得ながら学校における読書活動を充実させていくことが必要です。

ウ 地域に開かれた学校づくりを推進するため、地域のボランティア等の協力を得ながら、平常の教育活動に支障のない範囲で学校図書館を開放し、読書活動を推進していくことが望まれます。

⑧ 市立図書館との連携

平成27年度末において、市立図書館と連携している学校は、小学校10校、中学校1校でした。連携の内容は主に、市立図書館から学校図書館への図書館資料の貸出となっています。今後も引き続き連携を図り、児童生徒の多様な興味・関心に応えるような図書館資料の貸出や、読書活動の推進につながる取組を推進することが必要です。

(3) 市の施策

- ① 児童生徒の主体的な学習活動を支えるとともに、読書活動を通じて子どもの人間形成や情操を育む場としての学校図書館の役割にかんがみ、蔵書の整備に努めます。
- ② 子どもたちの豊かな人間性の育成を図り、知的活動を増進するための読書活動が、全ての学校において推進されるよう指導・助言に努めていきます。
- ③ 市立図書館と学校図書館、また学校図書館間の連携を強化し、情報共有や図書の有効活用に努めます。

5 幼稚園・認定こども園・保育園における読書活動の推進

(1) 子どもの読書活動の推進における幼稚園・認定こども園・保育園の役割

- ① 乳幼児期からの読書を習慣づけるため、幼稚園・認定こども園・保育園においても、子どもが絵本等に親しむ機会をつくるなどの活動を積極的に行うこと

が大切です。

- ② 子どもが安心して図書に触れることができるスペースの工夫や、保護者やボランティア等との連携・協力によるおはなし会などを行い、子どもが絵本等への興味を示せるような環境づくりを進めることが望まれます。
- ③ 子どもが絵本等の楽しさと出会うため、職員や保護者も、読み聞かせ活動グループの実演に子どもと一緒に触れるなど、読書の大切さや意義について理解を深めていくことが望まれます。

(2) 現状と課題

【読み聞かせを行っている幼稚園・認定こども園・保育園】

実施している	うち毎日実施
20 施設	18 施設

※平成 29 年 8 月、市内幼稚園・認定こども園・保育園 22 施設に調査。うち 20 施設が回答。

(教育委員会生涯学習課調査)

幼稚園・認定こども園・保育園では、日常の活動の中で読み聞かせが行われており、今後も継続して実施していくことが必要です。

(3) 市の施策

- ① 幼稚園・認定こども園・保育園の求めに応じて、子どもの発達段階に応じた図書の選び方に関する助言などの支援を行います。
- ② 幼稚園・認定こども園・保育園の求めに応じて、読み聞かせ活動グループの紹介や情報提供を行います。

第 4 章 子どもの読書活動の推進・支援体制の整備

1 推進・支援体制の整備

- (1) 子どもの読書活動の推進に当たっては、市の関係部局や関係団体等と密接な連携をとりながら、子どもの読書活動を推進するための具体的な方策についての検討、情報交換等を行うなど、総合的な推進体制の整備に努めます。

- (2) 地域の子どもの読書活動を推進する団体等と連携し、学校、幼稚園・認定こども園・保育園・児童館・放課後児童クラブ、病院、地域子育て支援センター等、読み聞かせ活動の受け入れを希望する関係施設等に対する支援を通し、子どもの読書活動の推進に努めます。
- (3) 子育てサークル、PTA等、子どもに関わるあらゆる団体の要請に応じて、子どもの読書活動の推進に係る情報の提供や、読み聞かせ活動グループの紹介等の支援に努めます。

2 普及啓発

(1) 子ども読書活動啓発事業の推進

① 「子ども読書の日」を中心とした全市的な啓発事業の推進

「子ども読書の日」(4月23日)は、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるために設けられました。

市ではこの日に関連する事業として「はるのひのおはなし会」等を実施していますが、これらの取組をさらに広げていくため、地域、学校、幼稚園・認定こども園・保育園、関係団体等との連携を図りながら、より充実した啓発事業が展開されるよう働きかけます。

② 各種情報の収集・提供

子どもの読書活動に関する情報を収集するとともに、多くの人々がこれらの情報に容易に接し、活用できるよう、ホームページ上に子どもの読書活動に関する記事を掲載するなど、関連情報の提供を行っていきます。

③ 保護者への意識啓発・情報発信の充実

子どもの読書活動の重要性を保護者に認識してもらうため、親子の読み聞かせの奨励や子どもが読書に親しむ機会をつくることの大切さ、推薦図書の周知などを図ります。

(2) 優良な図書の普及

子どもの健全な発達のために優良な図書は、地域における子どもの読書活動の推進を図る上で大変重要であることから、関係機関、団体等と連携し、子どもに読ませたい本を学校、幼稚園・認定こども園・保育園、市立図書館、児童福祉施設等で紹介するなど、優良な図書を家庭・地域に周知していきます。